

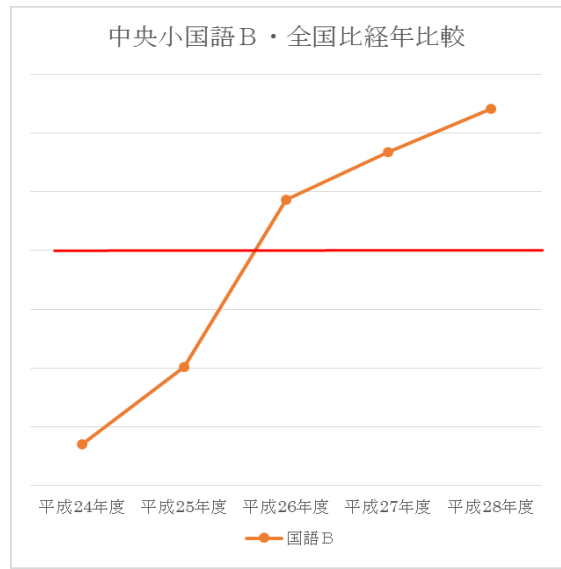
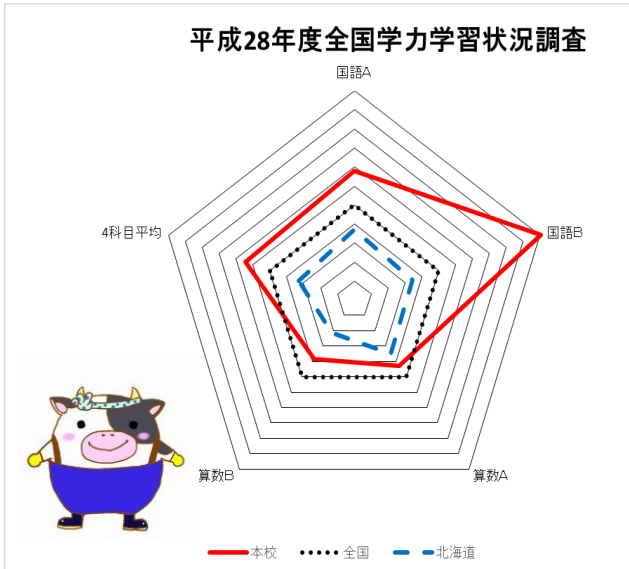
★全家庭配布

全国学力学習状況調査の結果と今後の取り組みについて

4月に実施された標記調査結果について、全家庭へお知らせします。対象の6学年だけではなく、校内で分析チームを組み、全校で結果を生かしながら、継続して『確かな学力の定着』に取り組んでいきます。子どもの学力向上には学校・家庭の連携が必要です。今後ご理解とご協力をお願いいたします。

◇国語A・数学A～基礎的・基本的な問題◇国語B・数学B～応用的な問題(学校や日常生活場面で使えるという意味の応用です)

《結果の概要》国語は昨年同様全国平均をABともに越えました。特に国語Bを中心に、日常の授業における授業改善(先進地域の秋田県横手市視察を参考にした取組等)と多読を中心とした読書活動等の成果と考えます。算数については課題を残しました。算数については一層の取組推進を行います。



↑全国平均を100とした場合のレーダーチャート↑

児童質問紙から

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
本校	98.4	94.8	44.2	11.7	100	92.2	91	97.5	88.3	94.8	90.9	72.8
全国	95.5	90.8	45.1	14.1	97	55.2	76.3	91.7	83.2	87.6	76.1	45
北海道	94	89.7	36.7	15.9	95.3	65.4	73	90.4	82.4	82.5	72.5	47.4

当てはまる(どちらかと言えばあてはまる含む) 単位%

【経年比較のため昨年度と同じ項目】

- 1～朝食を毎日、食べていますか。
- 2～毎日、同じ時間に起きていますか。
- 3～ゲームは1日1時間以内(全くしない含む)
- 4～テレビ等を見る時間が1日1時間以内(全く見ない含む)
- 5～家で学校の宿題をする。
- 6～家で授業の復習をする。
- 7～自分には良いところがある。
- 8～学校のきまりを守っている。
- 9～総合的な学習の時間は、普段の生活に役立つ
- 10～授業のはじめに、目標が示されている。
- 11～授業の最後に、振り返る活動がよく行われている。
- 12～自分の考えを説明したりすることは難しくない。

☆経年比較の結果☆

例年に比べ家での学習や読書を行うようになってきているが、ゲームやテレビを(長い時間)よく観る児童も増えてきている。課題であった自己肯定感が上がってきた。背景に先生に認められているという児童が増えている。指導方法についても、「授業のはじめに、目標が示されている」「授業の最後に、振り返る活動がよく行われている」と感じている児童の割合が高くなってきている。

☆無回答率について☆～ 例年、無解答(白紙)の割合は低いが、今年度は特に国語で低い。

- ・国語A～(無解答の割合は)全国の 5分の1
- ・国語B～(無解答の割合は)全国の 20分の1
- ・算数A～(無解答の割合は)全国の 3分の1
- ・算数B～(無解答の割合は)全国の 5分の1

裏面に今後の取組を掲載しています

★今後以下の取り組みを行っていきます★

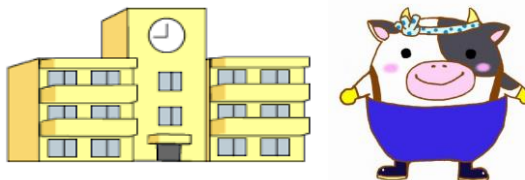
1. 学校生活全般で以下を大切にしていきます～凡事徹底

- ★支持的な学級風土づくり（QUをいかして）★自己肯定感の向上（年々上がっています）
- ★メタ認知（客観的に自己を振り返る） ★主体的・能動的な姿勢（指示待ちからの脱却）
- ★行事を含めた学校生活の中での達成感・成就感・一体感

2. 学習の土台として、学校全体で2点をより継続・徹底していきます★

- (1) 学習規律の徹底・・・・・・・・全校で統一した学習規律をより徹底していきます。
- (2) 授業改善の方向性の徹底・・授業等における板書・ノート等の約束の徹底

3. 学力向上へ～学校の取組



(1) 基礎力向上に向けて

	取り組み	具体的内容
1	宿題の充実	TT 教員を中心とした前学年の内容を盛り込んだ宿題の充実
2	放課後学習の充実	学校全体・学年毎の『放課後やればできる会』の実施
3	『読み検定』の実施	高学年の暗唱を先行中、他は今後検討
4	データベース問題の一層の活用	教科書に準じた算数科のネット問題の活用
5	基礎・基本トライの充実	トライ問題のくりかえしによる定着と達成感
6	家庭学習の充実	自学ウィーク等のキャンペーンの実施
7	最低学力保障の共有	学年別の具体的な目標と個の確かな見取り

(2) 活用力向上に向けて →以下4点を生かした授業等の改善に取り組みます

- ① 言語活動の一層の充実
- ② 問題解決的な学習や、特活・総合・他教科との関連を図った横断的な授業づくり
- ③ 授業の過程・板書・習得と活用・見通しの振り返りの継続
- ④ 上記3点を割当時数で実施するための計画と見通し



	具体的取組
1	国語科に限らず、学校教育活動全般で言語活動の充実を図ります。
2	発達段階に応じたアウトプット、それとともにアウトプットを意識したインプット 《低》発表における型の指導 《中》目的・相手意識をもった発表 《高》場に応じたより自然な発表スタイル
3	『単元一覧シート』を活用した、特別活動、総合的な学習の時間の充実に努めます。
4	教科・領域を関連づけた見通しをもった授業づくりに努めます。
5	実物投影機等ICT、思考ツール、言語ツール、板書の一層の活用と精選に努めます。
6	国語科の『読むこと・並行読書』を位置付けた活用場面の設定をします。
7	多読による取組と図書室、新聞の有効利用を進めます。

4. 家庭・地域との連携

★各ご家庭で
ご協力ください★

- ① 家庭での学習 学年×10分+10分の定着
- ② 規則正しい生活リズムの定着（高学年で一部先行実施中）
- ③ 放課後と長期休業中やればできる会学習サポーターやミシンお助け隊等のご協力
- ④ 平成30年度別海型コミュニティースクール導入への周知とご理解・ご協力

